

2.9 参加体験型学習に関する調査研究

研究代表者 馬場 祐次郎（社会教育実践研究センター センター長）

① 研究の趣旨，ねらい

参加体験型学習を効果的に活用した学習プログラムの開発を目指し、参加体験型学習の現状及び課題を踏まえ、課題解決に向けて学習者の自主的・主体的な学習参加を促す学習プログラムの在り方に係る調査研究を行い、社会教育指導者の資質向上に資する。

② 研究成果の概要

- 参加体験型学習の現代的意義や社会教育における参加体験型学習の可能性を明らかにするため、参加体験型学習の手法を効果的に活用したモデル学習プログラム（「参加体験型学習に関する研究セミナー」プログラム）を開発した。
- 参加体験型学習の指導者に求められる資質能力の在り方について平成18年度間に2回の「参加体験型学習に関する研究セミナー」を通して実証的に研究した。
- 参加体験型学習の効果的な活用に係る社会教育指導者の資質・能力として「学習支援における参加体験型学習の基礎理解」「参加体験型学習を取り入れた学習プログラムの企画・立案技能の獲得」「参加体験型学習の効果的展開につなげられる技能の獲得」の3点を基本項目に掲げた。
- 参加体験型学習を展開する学習担当者（ファシリテーター）の役割として「企画・立案」「実施・進行」「コーディネート」の3点を示した。
- 事前・事後に実施した受講者アンケートの自由記述に着目し、受講者の意識の変容から研究セミナーの有効性を検証した。
- 事前と事後アンケートの自由記述を比較してみたときに、受講者の明らかな変容が読み取れたことから、本研究セミナーは参加体験型学習の理解や手法の獲得に資するプログラムにとどまらず、自己主導的学習者（Self-directed Learner）の育成に有効なプログラムとしても評価できた。

③ 中期目標との関連性

- 中期目標〔目標4〕社会教育分野での実践的な調査研究に関連するものである。特に、社会教育課題として「新たな公共の形成」「社会の要請」への対応が求められる中、学習の成果の活用を促す学習方法の開発という視

点から（１）社会教育の現場における課題の把握とその解決に関する調査研究の実施に関連する。

- 社会教育実践研究センターの活動目標【目標２】社会教育事業を充実発展させるための新たな手法の開発や社会教育事業の検証・評価に関する調査研究を推進することに合致するものであり、特に新しい社会教育における学習プログラムの作成における参加体験型学習の有効な導入方策を見出すことにつながるものである。
- 社会教育実践研究センターの活動目標【目標３】社会教育指導者の資質向上を図る取組への支援を行うことに合致するものであり、特に「新たな公共の形成」「社会の要請」等新たな課題に対応した社会教育事業を開発するための資質能力の向上を図るものである

④今後の研究予定

- 平成１９年度に、平成１８年度に実施した「参加体験型学習に関する実態調査」結果を集計・分析し、調査研究報告書としてまとめる。
- ２か年の調査研究の成果を踏まえ、「参加体験型学習ハンドブック（仮）」としてまとめる。

⑤キーワード

- （１）参加体験型学習 （２）社会教育指導者 （３）新しい公共
- （４）社会の要請 （５）参加体験型学習の手法 （６）学習プログラム
- （７）課題解決学習 （８）自発的・主体的な学習参加

⑥本研究の研究報告書

- 参加体験型学習に関する調査研究報告書

⑦関連する先行研究や参考となる研究等

- 「学習活動支援と参加体験型学習」
：学習方法開発研究会 平成１０年度文部省委嘱
- 「参加型学習とラベルワーク～理論・実際・応用～」
：学習方法開発研究会 平成１１年度文部省委嘱